

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
第5学年	国語	26人	算数	26人	理科	26人

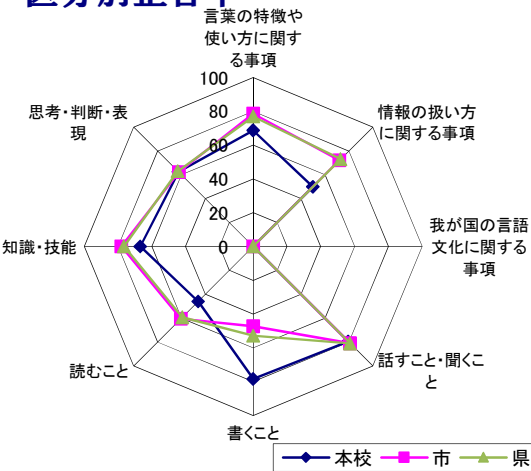
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	68.7	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	50.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	79.6	81.0	81.1
	書くこと	78.4	47.2	52.8
	読むこと	46.0	60.5	59.3
観点	知識・技能	66.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	62.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

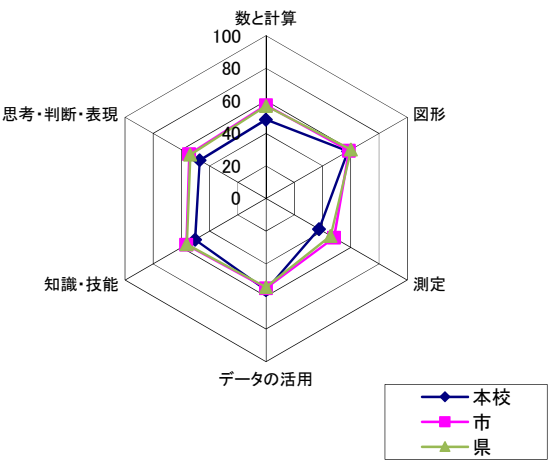
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○「育てた」「美しい」など普段からよく使う言葉については、漢字の読み書きが比較的良好に身に付いている。 ●「農業」のように普段あまり使わない言葉の漢字については、正しく読めていない。 ●「乗車」は無回答が多く、漢字の意味を理解できていなかったと考えられる。	・宿題や漢字オリンピックに向けて繰り返し練習してきたことで、読み書きできる漢字が増えてきたと考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・難しい言葉も授業の中で意識的に使う。 ・間違えて書いている漢字は確実に直させ、定着を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、載っている言葉の順番を正しく選ぶことができていない。	・引き続き国語辞典を活用する機会を設ける。 ・国語辞典を活用するときは、載っている言葉の順番に気を付けながら引くことができるように指導する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることと自分の考えを理由をあげながら話すことはよくできている。 ●司会者の話し方の工夫を捉えることに課題が見られる。	・朝の1分間スピーチの継続的实施や、授業の中で話し合いの場を多く設けていることが成果として表れていると考えられる。引き続き、話し合いの場を積極的に設けるとともに、話し方の工夫についても指導する。
書くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○指定された行数で書くことは、市の平均より約30ポイント高い。 ○2段落構成にすること、2段落目に理由を書くこと等、条件に合わせた書き方をすることができている。	・ことばタイムに10分間作文に取り組んできたことが成果として表れていると考えられる。引き続き、共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書いたり、段落等の条件に合わせて書いたりする時間を設ける。 ・引き続き、学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く問題の無回答率が高かった。複数の情報の中から中心となる語や文を見付けることができなかったものと考えられる。	・学年に応じた音読の取り組み方を工夫し、目で文章を追ったり、短時間に集中して読んだりできるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	48.5	57.4	56.9
	図形	58.0	58.7	60.1
	測定	37.5	48.1	45.7
	データの活用	56.1	54.9	54.3
観点	知識・技能	50.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	47.0	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

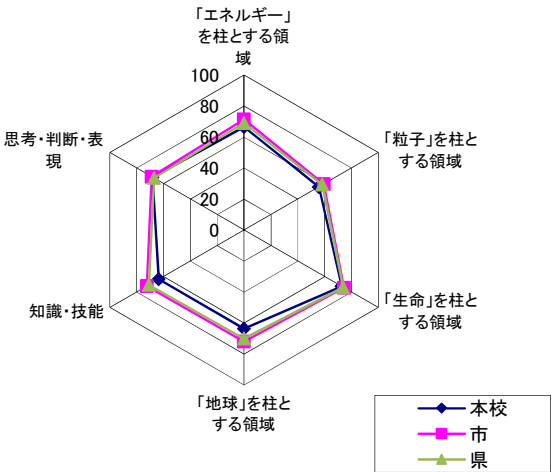
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○万の単位について理解し、大きな数の表し方や構成の理解が比較的よくできている。 ●口を使ったわり算の式に合った文章を選ぶことに課題が見られる。 ●余りの意味について理解し、計算の間違いを説明することに課題が見られる。	・計算の意味や式と文章の関係について考えさせる活動を取り入れ、文章題の内容に合った式を選ぶ力を育てていく。 ・余りの意味を理解させるために、誤答の理由を考える場面を設定し、計算の見直しや説明する力を伸ばしていく。
図形	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○球を平面で切った切り口の形の理解がよくできている。 ●球の半径や直径を利用して長さを求めることができるかどうかをみる設問の正答率は市の平均より低く、無回答率も多かった。	・球の切り口や性質の理解を深めるために、実物や操作活動、動画教材などを活用し、立体図形のイメージを育てていく。 ・半径や直径に着目した問題を繰り返し扱い、図や道具を活用した活動を通して、長さの求め方を定着させていく。
測定	平均正答率は市の平均より低い。 ○長さの単位について理解し、2つの道のりを比べてどちらの方が短い説明することが比較的よくできている。 ●時間と時刻を理解し、時刻を求めることに課題が見られる。	・時刻と時間の関係を理解させるために、時計や数直線を使った視覚的な支援を行い、具体的な場面での問題に取り組ませていく。 ・日常生活の中での時間の計算を取り上げ、体験をもとに時刻の求め方や計算方法への理解を深めていく。
データの活用	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○二次元の表から傾向を読み取ることの正答率は市の平均より高い。 ●二次元の表の合計欄にあてはまる数を答えることに課題が見られる。	・算数の授業に限らず、表の構造を意識させる場面を設定し、合計欄の意味や数の関係を考える活動を通して、情報の整理力を高めていく。 ・身近なデータを用いた表の読み取り活動に繰り返し取り組ませ、表全体を俯瞰して考える力を養っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	55.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.7	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	63.6	72.0	70.1
観点	知識・技能	63.6	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.2	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○風の強さともを動かすはたらきの関係について表現する設問がよくできている。 ●回路について理解しているかどうか見る設問では理解が不十分である。	・磁石に付くものや付かないもの、風の強さともを動かす働きの基本知識の定着は見られるので、一人一人が実験器具を扱った活動をさらに徹底するとともに、実験や観察で分かった結果を正しい理科の用語を使ってまとめ、言語化することを大切にしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●はかりを用いて正しく調べる設問では正しく調べる技能が身に付いていない。	・実験結果をまとめることが苦手な児童が多いため、理科の用語を使ってまとめ、言語化することを大切にしていくとともに、本時で身に付ける言葉をキーワードとして示しながら自分の言葉で説明できるようにする。 ・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着が図れるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○モンシロチョウとトンボの育ちの違いを捉える設問ではよくできている。 ●観察した植物の体のつくりを比較し、共通点を捉える設問では「葉」「くき」「根」と3つの要素を含めて記述することができていない。	・観察する際の見るべき視点を示しながら、身近にある植物のつくりについて再度注目させることで、知識の定着を図り、記述する場面を授業の際に意図的に多く設定する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○太陽と日陰の位置関係と、日影ができる方角の組み合わせを選ぶ設問ではよくできている。 ●温度計の正しい使い方を選ぶ設問では温度計の使い方についての理解が不十分である。	・実験内容と生活場面を関連させるような課題を設定し、実際に実験を行い、知識の定着を図るとともに理解を深められるようにする。 ・映像資料や実験、観察を通して、太陽の動き方と影の向きや動き方を比較することで、太陽の動き方の知識を整理して捉えられるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている。」の質問に対し、9割以上の児童が肯定的回答をしている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」の質問に対し、全員が肯定的回答をしている。これらのことから、学習に対して前向きに取り組もうとしている児童が多いことが分かった。今後も、児童の学習意欲が高まるような授業づくりをしていく。

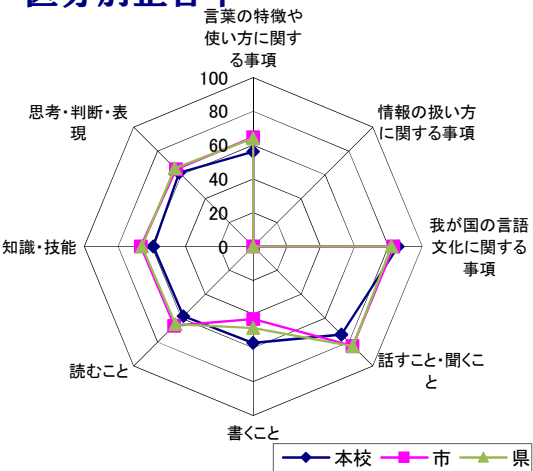
○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の質問に対し、9割以上の児童が肯定的回答をしている。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちょう戦している。」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合は86.4%で、市の平均と比べて5ポイント以上高い。本校の目指す児童像である、田西っ子プライド「頑張りぬく心」を合言葉に取り組んできた成果であると考えられる。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の質問と「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問に対し、肯定的回答の割合が市の平均を下回っている。これらのことから、自分の考えを表現することに課題が見られる。今後も授業における話し合い活動の充実を図り、自分の考えを書いたり、話したりする機会を増やしていきたい。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	85.7	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	73.8	83.3	83.4
	書くこと	57.1	42.8	48.2
	読むこと	58.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	59.1	66.5	65.9
	思考・判断・表現	61.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

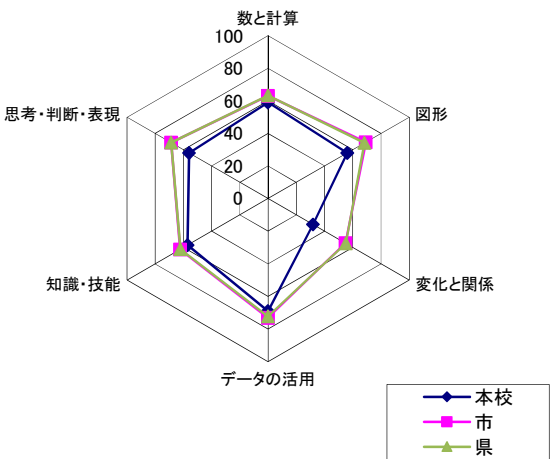
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○漢字の読みはよく身に付いている。 ●漢字の書きでは、「季節」の「倉庫」のような熟語は正答率が低い。	・漢字の読みは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習したり音読に継続的に取り組んだりする取組が成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・漢字の書きは、漢字オリンピックに向けて繰り返し練習に取り組ませる。 ・間違えた漢字については、間違い直しを確実にを行い、定着を図る。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることができる。	・引き続き、朝の学習やことばタイム、自主学習等でことわざや慣用語に触れる機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○意見の相違点や共通点に着目しながら自分の考えの理由をまとめることはよくできている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。	・朝の1分間スピーチの継続的实施や、授業の中で話し合いの場を多く設けていることが成果として表れていると考えられる。引き続き、話し合いの場を積極的に設け、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるよう聞き方を指導する。
書くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○指定された行数で書くこと、2段落目に理由を書くこと等、条件に合わせた書き方をすることができている。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことに課題が見られる。	・ことばタイムに10分間作文に取り組んできたことが成果として表れていると考えられる。引き続き、共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書いたり、段落等の条件に合わせて書いたりする時間を設ける。 ・引き続き、学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○物語文で場面の様子について発言者を捉えることができる。 ●物語文で、登場人物の気持ちを想像し、指定の言葉を使ってまとめる問題の正答率が低い。 ●説明文では、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。	・物語文では、場面ごとのまとまりを理解させ、人物の心情や情景を追うことで、物語全体の構成を捉えられるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.0	63.0	63.3
	図形	56.0	69.2	68.3
	変化と関係	31.8	54.8	55.0
	データの活用	69.1	73.1	72.3
観点	知識・技能	57.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	56.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

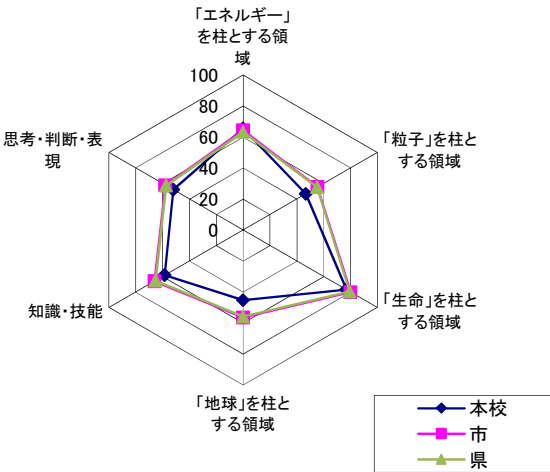
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○小数の計算は比較的よくできており、小数第二位×整数の計算の正答率は市の平均より高い。 ●図から数量の関係を読み取り、一つの式で表現することに課題が見られる。	・今後も、繰り返し計算練習に取り組ませ、計算の基礎基本の定着を図る。小数÷整数の計算についても、繰り返し計算練習に取り組ませることで、正確な計算ができるように指導していく。 ・図や具体的な場面を活用して、数量の関係を式で表す力を育て、意味を考えながら表現できるように指導していく。
図形	平均正答率は市の平均より低い。 ●三角定規の角の大きさの理解が不十分であり、組み合わせてできた角の大きさを求めることの正答率は市の平均より低い。	・三角定規や分度器を用いた具体的な操作活動を多く取り入れ、角の大きさの感覚を身に付けさせることで、図形の性質の理解を促していく。 ・図形問題への抵抗感を和らげるために、段階的に考え方の手順を示し、自分の言葉で説明する場面を取り入れていく。
変化と関係	平均正答率は市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことの理解が不十分であり、無回答率が高いことも課題である。	・変化する2つの数量の関係を式に表す力を育てるために、表やグラフを使った練習を繰り返し、数量の変化を可視化して理解させていく。 ・具体的な操作や体験を通して数量の関係を捉える活動を取り入れ、式化への抵抗感を軽減できるように支援していく。
データの活用	平均正答率は市の平均より低い。 ○二次元の表の意味を理解できているかを問う問題では正答率は市の平均より高い。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることに課題が見られる。	・棒グラフと折れ線グラフの違いや特徴を比較させながら、複合グラフから情報を読み取り、傾向をつかむ力を育てていく。 ・グラフから読み取った内容を自分の言葉で説明する場面を設け、思考を言語化する力を養っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	46.7	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	77.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	45.2	56.4	55.8
観点	知識・技能	58.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	52.0	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ設問では正しい箇所を選ぶことができています。 ●簡易検流計の針の振れ方を示した図を選ぶ設問では検流計の仕組みや、電流の向きや大きさについての理解が不十分である。	・実験器具の正しい使い方を覚えていない児童が多いため、器具を使って終わりではなくノートにまとめたり、実際に使う際に確認を行ったりして定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○実験結果から分かる水の温まり方を適切に選ぶ設問はよくできている。 ●水と空気を閉じ込めて圧す実験結果を選ぶ設問ではそれぞれの性質についての理解が不十分である。	・授業で行った実験の結果を知識として定着させるとともに、得た知識を活用して考える場面を大切に扱っていく。 ・目に見ることができない事象について図示したり、映像で確認をしたりすることによって、理解の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ヘチマの季節ごとの成長の様子について理解しているかどうかをみる設問ではよくできている。 ●骨のはたらきを説明した文章を選ぶ設問では骨のはたらきについての理解が不十分である。	・キーワードを示しながら自分の言葉で書くことができるようにする。 ・授業で行った実験の結果を知識として定着させるとともに、得た知識を活用して考える場面を大切に扱っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●星の移動と並び方について適切なものを選ぶ設問では、星座の並び方は変わらないことや、北の星の動きについての理解が不十分である。	・映像資料や実験、観察を通して、星座の動き方と影の向きや動き方を比較することで、星座の動き方の知識を整理して捉えられるようにする。 ・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着が図れるようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役立つと思う。」の質問に対し、9割以上の児童が肯定的回答をしている。また、「授業を集中して受けている。」の質問に対し、9割近くの児童が肯定的回答をしている。これらのことから、主体的に学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の質問に対し、9割以上の児童が肯定的回答をしている。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている。」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合は84%で、市の平均と比べて5ポイント以上高い。本校の目指す児童像である、田西っ子プライド「頑張りぬく心」を合言葉に取り組んできた成果であると考えられる。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の質問に対し、肯定的回答をした児童が48%で、市の平均と比べて18.8ポイント下回っている。このことから、学校での学習には意欲的でも、家庭での学習には意欲的でない児童が多いことが分かる。今後も、家庭学習のやり方について児童に指導するとともに、保護者への啓発を行っていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを書いたり話したりして言語化する力の育成と、友達の考えをよく聞き、自分の考えと比べて考える力の育成	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取し、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。	4・5年生ともに、国語の作文問題がよくできていた。自分の考えを自分の言葉で表現する力が付いている。国語、算数ともに問題文が長文になるほど正答率が低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4, 5年生ともに、どの教科においても、長文を読み取った上で自分の考えを書いたり説明したりする問題の正答率が県の平均を下回っている。また、自分の意見を発表することに抵抗感をもつ児童が多く見られる。	全教科において、自分の考えを書いてから話す、話し合いをしてから自分の考えを書く等、話したり聞いたりすることと書くことの一体化を図る。	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を取ってから話し合ったり、話し合ってから自分の考えをまとめる時間を設けたりする。 ・話し合いの際に、「例えば」「なぜ」など学びを深めるキーワードを示す。